

## JENESYS2025 日本・ASEAN 同窓生スタディープログラムの記録 (テーマ：同窓生コネクトキャンプ)

### 1. プログラム概要

#### 【目的・概要】

本プログラムは、現在日本に在住する JENESYS 招へいプログラムの各国の同窓生及び同派遣プログラムの日本人同窓生が 1 泊 2 日のグループでのフィールドワークやワークショップを通じて、プログラムの参加年度や国を超えた同窓生間のコミュニティを構築し、ネットワークを強化することを目的として実施しました。また、このプログラムの経験を通じ、JENESYS 同窓生同士の協働スキルを高めるとともに、今後の日本における同窓会活動について考える機会となることも目指しました。

【参加者】ASEAN 諸国及び日本の同窓生 合計 40 名

(内訳) インドネシア 3 名、カンボジア 1 名、日本 8 名、フィリピン 5 名、ベトナム 5 名、マレーシア 4 名、ミャンマー 8 名、ラオス 6 名

【訪問地】東京都 40 名

#### 【日程】

■ 同窓生スタディープログラム：2026 年 3 月 14 日（土曜日） - 3 月 15 日（日曜日）

2026 年 3 月 14 日（土曜日）

1. 【オリエンテーション】オリエンテーション、アイスブレイク
2. 【参加者間交流】アルムナイカフェ#1 グループ内ディスカッション
3. 【交流】フィールドワーク「発見でつながる：浅草&向島エリア・ミッションチャレンジ」

2026 年 3 月 15 日（日曜日）

1. 【参加者間交流】アルムナイカフェ#2 JENESYS 招へい・派遣の経験が自分の人生に与えた影響について
2. 【ワークショップ】報告会準備（フィールドワーク中の 30 秒動画作成・本プログラムでの学び・今後の同窓生活動について策案）
3. 【報告会】動画・今回のプログラムでの学び・今後の同窓生活動についての発表

## 2. 記録写真

### 同窓生スタディプログラム



2026年3月14日【オリエンテーション】



2026年3月14日【オリエンテーション】  
アイスブレイク



2026年3月14日【参加者間交流】  
アルムナイカフェ#1



2026年3月14日【交流】フィールドワーク



2026年3月14日【交流】フィールドワーク



2026年3月14日【集合写真】



2026年3月15日【参加者間交流】  
アルムナイカフェ#2



2026年3月15日【ワークショップ】



2026年3月15日【報告会】



2026年3月15日【集合写真】

### 3. 参加者の感想（抜粋）

#### ◆ ミャンマー 大学生

他国の方々と英語でコミュニケーションを図り、お互いに理解を深め合うことができたのは、私にとって大きな収穫でした。このような経験ができたことを、大変嬉しく思っています。今後は、お互いの理解をさらに深めるために、同窓会プログラムにもぜひ参加したいと考えています。今回のコネクトキャンプは短期間ではありましたが、それ以上に多くの思い出を刻むことができました。

#### ◆ 日本 大学生

2日間にわたり、このような素晴らしいプログラムを企画・実施していただき、誠にありがとうございました。地域の文化について学びながら、同時に私たちのチームワークを深めることができました。初日のアルムナイカフェは、参加者の名前をすぐに覚えることができる良い機会でしたし、好きな食べ物をきっかけに会話を始めることで、他の参加者とも話しやすくなりました。ぜひ自分の大学での国際交流イベントでもこのような方法を取り入れたいと思います。

フィールドワークもまた、非常に有意義な経験でした。訪問先について学べたことに加え、時間管理や国籍を越えた協力を実践することができ、活動の意義をより深く感じることができました。

2日目のアルムナイカフェもとても印象的でした。参加者それぞれの経験を聞くことで、その後の昼食や最後のフリートークの時間では、より深い会話ができたと感じています。

全体を通して、プログラムのあらゆる要素が参加者同士のコミュニケーションや交流を促すよう工夫されており、本当に価値のあるプログラムだと感じました。

#### ◆ ベトナム 大学生

本プログラムは、日本国内に在住する ASEAN 諸国出身の JENESYS 同窓生たちと再会し、将来的に永続的な協力関係へと発展しうる新たな友情を築くという、大変貴重で得がたい機会を与えてくれました。特に浅草での文化活動は、深く心に残っています。日本がなぜこれほどまでに人々を惹きつけるのか、改めて気づかされました。単なる旅行先としてだけでなく、古くからの伝統と新しい感性が、いかに共存できるかを教えてくれるお手本のような国だからです。しかし、何よりも感銘を受けたのは、会場に満ちていた熱気です。JENESYS での経験を胸に、参加者の一人ひとりがそれぞれの形で交流の架け橋を築き続けてきたという、同窓生たちの「共通の目的意識」を強く感じました。今回の再会は、その精神に再び火を灯し、新たな方向性を示してくれました。

プログラムの参加を終えた今、私は新たな情熱を抱き、自身の専門分野において日本と ASEAN の絆を強めるためにどう貢献できるか、より明確なビジョンを持つことができます。

◆ フィリピン 社会人

私たちはそれぞれ JENESYS の異なるプログラムからの参加者ですが、互いに刺激を与えることができる、多くの共通した経験を持っています。そうした共通の経験が、現在の参加者から未来の JENESYS 参加者や同窓生へと、アイデアや知識をつないでいきます。

◆ インドネシア 社会人

同窓生たちと再会し、これまでの歩みの振り返りを共有できたことは本当に貴重な時間でした。非常に体系立てられた有意義なプログラムで、将来に向けて新たな活力を得ることができました。皆様の継続的なご支援とご指導に、深く感謝いたします。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

 <p>A screenshot of a Facebook post. The text at the top reads: "It's been 10 years since my journey with JICE first began, and being back for the JENESYS2025 ASEAN-Japan Alumni Study Program (Alumni Connect Camp) feels like coming home. 🏡 A huge thank you to the organizers for giving us this opportunity to reunite with old friends and build new connections. It's been inspiring to hear how everyone has been contributing to society over the past decade. This program has truly been a 'growth engine' for so many of us, helping us evolve into the people we are today. I am proud to say that I am a product of this incredible, quality-building experience. So grateful for the lessons learned and the friendships renewed! ❤️ #JICE #JENESYS". Below the text are several photos: a group photo with a banner that says "ENESYS", a person speaking at a podium, and another group photo with a banner that says "ENESYS".</p>	 <p>A screenshot of an Instagram post. The text at the top reads: "ASEAN-Japan Alumni Study Program in Japan". Below that, it says: "ASEAN-Japan Alumni Study Program in Japan". The main text says: "It has been 10 years since I participated in the JENESYS in Malaysia. This time I participated in an exchange program where ASEAN-Japan graduates gather. We had discussions and fieldwork with our students and working people of different nationalities and we had a wonderful network. I will continue to learn and contribute about business culture through internet games and non-cultural exchange". There are several photos of people at a camp, a banner that says "Thank you all!!", and a banner that says "ASEAN-Japan Alumni study program".</p>
<p>2026年3月15日（Facebook） ラオス 大学生 10年前に JENESYS に参加し、今回「JENESYS2025 日本・ASEAN 同窓生スタディープログラム（テーマ：同窓生コネクトキャンプ）」に戻ってきたのは、まるで故郷に帰ってきたような気分です。 旧友と再会し、新たなつながりを築く機会を与えてくださったことに、心から感謝申し上げます。この10年間、同窓生がどのように社会に貢献してきたかを見聞きすることは、私にとって大きな刺激となりました。JENESYS は、多くの同窓生にとって真の成長の原動力であり、今の自分たちへと成長させてくれました。私自身が、この素晴らしい経験の賜物であると胸を張って言えます。そこで得た教訓と、再び絆を深められた友情に、心から感謝しています。</p>	<p>2026年3月16日（Instagram） 日本 大学院生 JENESYS のマレーシア派遣に参加してから2年。今回は JENESYS の修了生が集う交流プログラムに参加させていただきました。 国籍の異なるたくさんの学生、社会人の方とディスカッションやフィールドワークを行い、素敵なネットワークができました。 今後もインバウンドガイド、大学の国際交流団体などを通じて、「日本文化」を学び、発信していきます。</p>

These past two days felt like a dream to me. I had the chance to meet so many incredible people, and I'm truly grateful for every moment we shared.

First of all, I want to give a heartfelt thank you to our team leader and sub-leader. Without your support, guidance, our team would not have come together in such harmony. I learned so much from both of you, not just through your words, but through your actions. I'm also thankful for your guidance to "Zar" gave me throughout this journey.

...getting to know all of you, talking together, and drawing inspiration from each of you has been one of the most meaningful experiences of my life. Every conversation, every laugh, and every shared effort will stay with me.

Through this experience, I also came to understand teamwork on a deeper level—what it truly means to support one another and grow together.

As our team leader said, I sincerely hope that all of us, as JENESYS alumni, can continue to stay connected and build a better future together.

Thank you, everyone.

ASEAN-Japan Alumni Study Program

JENESYS ASEAN

rice\_exchange

#jenesysmyanmar

JENESYSAlumni



2026年3月17日 (Facebook)

ミャンマー 大学院生

この2日間は、まるで夢のような時間でした。多くの素晴らしい方々と出会い、共に過ごした一瞬一瞬に心より感謝しています。参加者の皆様と交流を深め、意見を交わし合い、それぞれの視点や考え方から刺激を受けたことは、私にとって非常に意義深く、かけがえのない経験となりました。一つひとつの対話や笑顔、そして共に取り組んだ活動のすべてが、今後の糧として心に刻まれています。

さらに、本経験を通じて、チームワークの本質についても理解を深めることができました。互いに支え合いながら、それぞれが成長していくことの重要性を、実感をもって学ぶことができました。JENESYSの同窓生として、今後もつながりを大切にしながら、共により良い未来の構築に貢献していけることを心より願っています。

2026年3月20日 (Instagram)

インドネシア 社会人

1日目 - 冒険の始まり！

初日は、1チーム6〜7名の全6チームにランダムに振り分けられました。

メンバーは、異なるプログラムや国から参加したJENESYSの同窓生たちがミックスされた構成でした。

短い自己紹介とブリーフィングの後、事務局から渡された地図とミッションシートを手にいざ出発！浅草・向島エリアにある、興味深くユニークで文化的なスポットを探索しました。

私たちが訪れたのは...

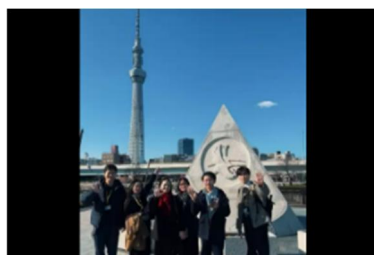
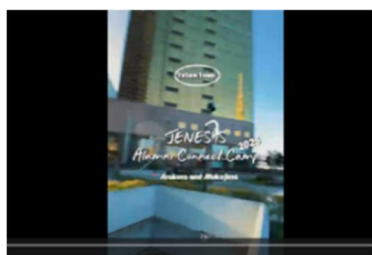
- ・世界的に有名な浅草神社
- ・無数のキツネの像で知られる被官稲荷神社
- ・大根をお供えして健康や良縁を祈る待乳山聖天
- ・隅田川の兩岸を結ぶ、眺めの良い歩行者専用の桜橋
- ・人懐っこい野生動物や、桜の季節には格別の美しさを見せる隅田公園

7人のチームで約8kmを歩き、9つの目的地を巡って14のミッションをすべてクリアしました。

## 6. 報告会での再訪日成果の発表

訪問地：東京都 全6グループ発表

### グループ：イエロー



(1.フィールドワーク動画の画像の一部。2.3.の発表に使用した模造紙)

#### 【成果の発表】

1. フィールドワーク動画の上映（画像参照）

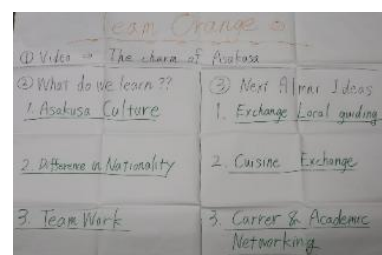
2. 今回の同窓会での気づき

浅草や向島には何度も足を運んでいます。今回はこれまでにない新しい発見がたくさんありました。地元の方々とお話しする中で、その土地に根付く文化を改めて学ぶことができたのも大きな収穫でした。また、限られた時間の中でできるだけ多くのチェックポイントを回れるよう、皆で計画を立て、力を合わせて取り組むことができました。

3. 今後の同窓会企画案

- ・ 文化交流 日本の文化だけでなく、各国の文化を紹介し理解を深める
- ・ JENESYS 同窓会専用のプラットフォーム
- ・ すでに日本で就業、学習している人たちがメンターとなり、1対1で相談できるシステムの構築
- ・ 各地の同窓生に、JICEのコーディネーターのような人をボランティアで呼びかけ、本プログラムと同様のイベントを開催

### グループ：オレンジ



(1.フィールドワーク動画のキャプチャ画像。2.3.の発表に使用した模造紙。)

#### 【成果の発表】

1. フィールドワーク動画の上映（画像参照）

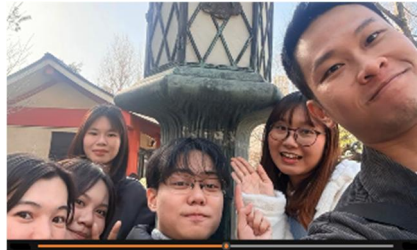
2. 今回の同窓会での気づき

- ・ これまで知らなかった浅草の文化、ひいては日本の文化を学ぶことができました。
- ・ 国籍による文化の違いを感じました。
- ・ ミッション達成のためのチームワークを構築することができました。

### 3. 今後の同窓会企画案

- ・ 同窓生が自分の住んでいる場所のガイド
- ・ 各国の料理を紹介
- ・ 就職や進学についての情報交換とネットワークづくり

#### グループ：ブルー



(1.フィールドワーク動画のキャプチャ画像。2.3.の発表に使用した模造紙。)

#### 【成果の発表】

##### 1. フィールドワークの動画の上映（画像参照）

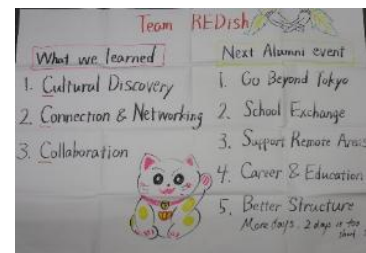
##### 2. 今回のプログラムでの気づき

- ・ つながることを通した学び：共通の目的に向かって、共に取り組むことができました。
- ・ 協働を通して得た力：多様なバックグラウンドを持つ人が集まり、アイデアを交わし合うことで、協力することがどれほど大きな力になるかを学びました。
- ・ 互助：お互いに支え合うことの大切さを実感しました。
- ・ 創造的に考え問題を解決する：新しい視点を探り、共にこれまでにない解決策を生み出すことができました。
- ・ 相手の話を深く聴き、リーダーシップを発揮する力を養いました。
- ・ 失敗を恐れずに挑戦し、学び続ける姿勢を養うことができました。
- ・ チーム精神：助け合い、励まし合いながらフィールドワークを行いました。

##### 3. 今後の同窓会企画案

- ・ キャンプ
- ・ 環境と生物多様性、SDGs を探求するイベント
- ・ 各地でのイベント／ネットワーク：同窓生は日本の様々な場所に住んでいるため、各地の情報交換が可能

#### グループ：レッド



(1.フィールドワーク動画のキャプチャ画像。2.3.の発表に使用した模造紙。)

### 【成果の発表】

1. フィールドワーク動画の上映（画像参照）
2. 今回の同窓会での気づき
  - ・ 観光にとどまらない文化の再発見：単に景色を見るだけでなく、その土地の深みに触れることができました。
  - ・ つながりとネットワークの構築：新しい出会いや、参加者同士の絆を深める貴重な機会となりました。
  - ・ 共創とコラボレーション：お互いの知恵を出し合い、共に何かを作り上げる大切さを学びました。
3. 今後の同窓会企画案
  - ・ 東京以外で開催する
  - ・ 学校交流：中学校や高校などとの交流
  - ・ 日本各地、世界中に点在する同窓生に、情報交換、文化交流の機会を提供・サポート
  - ・ 就職、キャリア形成、進学などの情報交換
  - ・ 同窓会プログラム内容の再考（2日間では短いのでもう少し長い期間での実施）

### グループ：ピンク

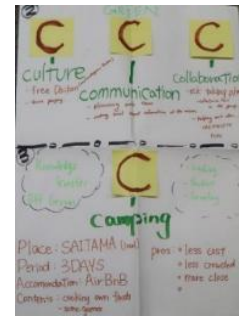


(1.フィールドワーク動画のキャプチャ画像。3.の発表に使用した模造紙。)

### 【成果の発表】

1. フィールドワーク動画の上映（画像参照）
  3. 今後の同窓会企画案
- これまで接点がなかった同窓生同志のご縁を強固にするために、以下のイベントを提案します。小規模のイベントであれば持続可能であり、年に4回、季節や地域ごとに実施したいと考えています。どのようなイベントにするかは以下の通りです。
- ・ 国別・地域別のリーダーシップネットワークの構築（地域あるいは国ごとに同窓生のリーダーを選び、他の同窓生にも声をかける）
  - ・ 語学交流やディベート（特に日本人の同窓生は言語学習の機会が少ないため、多言語ディベート、会話の機会があればよい）
  - ・ 課題解決型活動、都市探検イベント（様々な問題を抱えていても相談する人がいないこともあるため、同じ境遇の人が集まって一緒に解決していきたい）
  - ・ ランニング、ヨガ等の交流イベント
  - ・ JENESYSの枠を超えたつながり（カケハシ・プロジェクトやMIRAI等、他のプログラムの同窓生ともつながりグローバルなネットワークを作りたい）
  - ・ マスコットキャラクターの制作（キーホルダーを作りたい）

## グループ：グリーン



(1.フィールドワーク動画のキャプチャ画像。2.3.の発表に使用した模造紙。)

### 【成果の発表】

1. フィールドワーク動画（画像参照）

2. 今回の同窓会での気づき

#### 三つの C

- ・ Culture（文化）：大根をお供えし、持って帰れる神社の参拝の仕方を学びました。
- ・ Communication（会話）：どのようにミッションを完了するかチーム内で計画しました。街で出会った人たちに質問をしました。
- ・ Collaboration（協働）：互いに写真を撮り合い、グループ内で協力をして助け合いました。

3. 今後の同窓会企画案

- ・ キャンプ
- ・ 異なる立場や国・背景を同窓生が持っているため、知識や情報交換の場を設けたいと考えます。具体的な例としては、埼玉県のアirbnbに同窓生が集まり3日間宿泊し、自国の料理の紹介やゲームを行うイベントを提案したいです。この具体例は、費用削減の効果が見られることと、混雑を避けられること、さらに同窓生同士がより親しくなることができることが見込まれます。
- ・ 次世代の人たちが来日し、日本で経験を積んでいく上での道しるべとなるように、参考になるロードマップを残したいです。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）